

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧

理学療法学科

科目名	担当教員・授業内容		単位数	時間数
評価実習	担当教員	横山暁大・那須宣宏・田村正樹（全て実務経験者）	3	135
	内容	基幹科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの理学療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を涵養し、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や痛みに共感し、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、展開科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。		
総合実習Ⅱ	担当教員	増川武利・鈴木啓子・小島一範（全て実務経験者）	8	360
	内容	実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という理学療法の全過程を実践し、多職種連携の実際を体験し、理学療法士に必要な問題解決能力と実践力に磨きをかける。また、専門技能錬成プログラムと展開力育成プログラムを有機的に組み合わせて運用することにより、職業現場を主導できる高い実践力と豊かな創造力を養うことを目的とする。		
物理療法実習	担当教員	田村正樹・田中雅侑（全て実務経験者）	1	30
	内容	「物理療法」の内容を基に、温熱療法・光線療法・水治療法・電気刺激療法・牽引療法・マッサージ療法（浮腫軽減）の実技を学ぶ。 到達目標：①温熱療法が使用できる。②光線療法が使用できる。③電気刺激療法が使用できる。④牽引療法ができる。⑤マッサージ療法ができる。		
理学療法治療学実習Ⅰ	担当教員	明日徹・増川武利・田村正樹（全て実務経験者）	1	30
	内容	「理学療法治療学Ⅰ・Ⅱ」の内容を基に、神経系疾患の機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。		
基礎理学療法学	担当教員	片岡弘明（実務経験者）	2	30
	内容	運動学で学習した知識を踏まえ、正常な基本的動作の遂行に必要な心身機能を理解するとともに、疾患や障害による動作障害の特徴を正常と対比させ運動学的に理解する。よって、講義に際しては運動学の基礎知識を自主的に予習・復習すること。毎回小テストを実施し、現状を把握して予習・復習に繋げる。		
計			15	585

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧

作業療法学科

科目名	担当教員・授業内容		単位数	時間数
作業療法演習Ⅰ	担当教員	野口泰子（実務経験者）	2	30
	内容	身体障害、老年期障害領域において臨床場面で遭遇する多様な患者に対して、患者に適した作業療法を実施するために演習を通じて知識の統合を図る。事例やペーパーペイシエントを活用し作業療法評価から治療プログラムの立案までの基本的な臨床的思考能力を鍛える。また、実際の訓練や治療場面を想定しながらアプローチ方法を組み立て、実技を交えて実践し知識と技術の定着を図る。		
総合実習Ⅰ	担当教員	渡部悠司・十河正樹・野口泰子（全て実務経験者）	9	405
	内容	基幹科目で学んだ専門知識と技術と評価実習の成果を基礎とし、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という作業療法の全過程と関連職種との連携を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学んだ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育て、問題を特定化していく。		
評価実習	担当教員	濱畑法生・十河正樹・渡部悠司（全て実務経験者）	3	135
	内容	基幹科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの作業療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を涵養し、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や痛みに共感し、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、展開科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。		
計			14	570